

同志社大学

2014年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2013年 3月 2日提出

所 属	職 名	デブナール 氏 ミロシュ 名
社会学部	助教（任期付き）	Milos DEBNAR
研 究 題 目	中央ヨーロッパ在住日本人の社会学的研究	
研 究 成 果 の 概 要	<p>本研究は、中央ヨーロッパに在住する日本人を対象にし、彼らの移動動機、経路や生活世界について研究を進め、多様化している日本人の対外移民を例証及び解明すると同時に、今までの在日ヨーロッパ人の研究の引き続きで、現代移民をより包括的な理解を目指す目的をもつ。昨年とは本プロジェクトの初年度であり、方法論的、理論的と実践的な準備が中心であった。まずは、本研究に方法論的と理論的な関連を持つ先行研究を収集・調達した。特に、本研究で実施を計画しているインターネット上の質問紙調査に関連する書籍・論文、日本の対外移に関する基本的文献と多様な移民パターンに関する文献・論文の調達を始めた。</p> <p>さらに、先行研究と最近の研究行動を把握できるために、次の学会に出席し、情報収集を行った。五月には、International Union of Anthropological and Ethnological Sciences（日本文化人類学会と合同、幕張メッセ）、関西社会学会（富山大学）、7月に World Congress of International Sociological Association（省略ISA、パシフィコ横浜）に出席し、移民、エスニシテと人種に関する社会学的研究のセッションと専門委員会でも最新研究に関する貴重な情報を収集した。また、ISAにおいては研究報告とセッションの主催・チェアもした。主に今までの研究の結果の一部を報告し、その発表に基づいた論文が3月に <i>Migration Société</i> 誌（単独、フランス語訳）で発行される。Ann Denis 教授（オタワ大学）と共同で主催・シェアしたセッションでは現代の日本移民の多様な姿を描く研究発表が7つも報告され、これからの研究に役立つ情報及び研究協力者とのつながりが数多くできた。</p> <p>本研究の実践的側面に関しては、今年の2月にスロバキアを中心に、中央ヨーロッパ在住日本人のパイロット調査を実施した。今回の研究機関が短かったものの、正式的なインタビューを Brno 市（チェコ）と Bratislava 市（スロバキア）で3人にし、スロバキア日本人会の代表者、前回インタビューした対象者（7名）や中央ヨーロッパ在住日本人の有識者との打ち合わせや追跡調査を行うことによって、貴重なデータが得られた。これらのデータのまとめ、元にすることによって、これからはスロバキアとチェコのみならず、ハンガリーやオーストリアのその他の中欧諸国においてインターネット上の質問紙調査及び追跡のインタビュー調査を設計し、今までの結果を研究ノートでまとめることを目指す。</p> <p>上記以外の研究成果に関しては、昨年12月に『京都者社会学年報』で日本のグローバル・シティと格差に関する論文（共同、英語）、そして今年3月に『同志社社会学』で移民パターンの多様化・複雑化（単独、日本語）に関する究論文も掲載され、共同で執筆したスロバキアの家族変化に関する一章が10月に Brill 社に出版された本に掲載された。</p>	